

校番 36	福山市立神辺西中学校
-------	------------

1 学校教育目標

豊かな心と表現力を養い、仲間と共に未来を創造できるたくましい生徒の育成

2 経営理念

(1) 地域社会における自校の使命(ミッション)

平成12年の問題行動多発による学校不振克服のために、平成13・14年度の生徒指導加配と15・16年度県生徒指導推進校・生徒指導重点校指定を受けて問題行動の克服に努めてきた。今日では「明るく落ち着いた雰囲気のある学校」と一定の評価を受けるようになってきた。しかし、表現力不足に起因するいじめや不登校の増加現象及び自ら意欲的に学び取る力(表現力)の育成を通しての基礎・基本学力の定着と向上と道徳教育活動により豊かな心の育成が使命である。

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

本校教育目標を実現するための五つの生き方の高揚と具現化を図ることが、本校の将来像である。

1. 人権尊重の精神をつらぬく生き方ができる。(花いっぱい運動・あはつ運動・合宿・体育祭・文化祭)
2. 正義を愛し、ともに磨きあう連帯感のみなざる生き方ができる。(生徒委員会活動・部活動・交通安全教室)
3. 真理を探究し、科学的思考を求める生き方ができる。(科学的根拠を明示した表参運動・少人数指導による基礎学力の定着向上)
4. 責任を重んじ、勤労を尊ぶ生き方ができる。(職業訪問・体験活動・清掃活動)
5. 民主社会に貢献できる生き方ができる。(福祉体験学習・地域行事へのボランティア参加活動)

3 自校の現状分析

参観授業・懇談会後の保護者対象の調査では、「生徒が明るく生活している」の項目で76%大変そう思うとの評価を得ているが、学習風景についての項目では「概ねそう思う」と「大変そう思う」をあわせて62%という状況であり、基礎・基本学力定着・向上に向けた教職員指導力の向上を図ることが肝要であると同時に、一昨年は国・数・英についてCRT検査・基礎基本定着状況調査において全国・県平均を上回ったものの、昨年はCRT検査については全国平均を若干上回り、基礎基本定着状況調査では県平均に届かなかった。また、自己意思の正しい伝達ができないために、人間関係がこじれるとともにいじめにまで発展したケースも多く、また不登校生徒のほとんどが人間関係のもつれから起因したのも見受けられる。こうしたなかで、基礎・基本学力の定着・向上と道徳性の涵養をいっそう図りながら不登校生徒の減少に努めることが重要な課題となっている。こうした生徒実態と比例して参観授業・懇談会や諸行事への保護者参加意識も低く、家庭訪問・教育相談・懇談会を通して積極的参加を促していかなければならない課題もある。

4 研究主題

(1) 研究主題

個性を伸ばす豊かな表現力の育成  
自己意志の根拠を明示できる表現活動の創造

(2) 研究指定

指 定	事 業 名 等	期 間
市	少人数指導推進支援事業(数学)	平成18年度
市	教育研究支援事業(道徳)	平成18・19年度
県	不登校児童・生徒支援モデル事業	平成18年度

5 今年度の重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
自己意志の根拠を明示できる 表現活動の創造	基礎基本学力の定着・向上をめざした取り組みを継続してきたが、平成16年度は県平均を若干上回ったが、17年度は県平均に届かず、少人数学習指導とドリル学習にて学力定着・向上を図る。また平成17年度にはいじめの多発と不登校生徒の増加現象をきたし、道徳心情と判断力を高めることによって豊かな心の育成を図り、いじめの克服に努めるとともに不登校生徒支援専門員との連携を強化して不登校生徒の減少に努めなければならない。いずれにしても、根拠を明確にした自己意志表現能力の育成を図るなかで、学習意欲の喚起と道徳性の涵養を図らなければならない。

6 評価基準

評価	評価基準	
A	80%以上の達成度	目標を達成できた
B	60%以上、80%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C	40%以上、60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
D	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

## 7 目標・評価項目の設定と評価(最終)

市重点 目標	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	分類	( ) 評価	短期経営目標の達成状況 及び 次年度の改善方針	次年度 方針
確 か な 学 力	授業の質を高める授業 計画  一人一人に応じたきめ 細やかな指導  指導に生かす評価 (指導と評価の一体化)	シラバスの工夫・改善 を図る。	ア.夏期休業中と年度末にシラバスを 研究 し,改善・充実を図る。	継続	A	各教科で来年度のシラバス改善し,作成を行った。 単元及び毎授業ごとの評価項目をより具体化する研究が必要である。	継続
			イ.言葉の教育・キャリア教育・総合 的な学習などとの関連をはかつ たシラバスを工夫する。	新規	A	全教科において,関連づけを行っている。 各教科授業において統一した取り組みが必要である。	改善
		少人数指導など指導 方法の工夫改善を図 る。	ア.数学科・英語科において習熟度別 少人数指導をおこなう。	継続	A	各教科基礎・発展と分け学習できた。 個々の習熟度アップをはかるきめ細かい指導体制が必要である。	継続
			イ.選択教科において補足的な学習や 発展的学習をおこなう。	継続	A	検定,入試問題等で学習していった。 今後,教科及び校内検定との関連性を明確にすべきである。	継続
		基礎・基本の定着を図 る。	ア.国・数・英の3教科においてドリ ル学習を推進する。	継続	A	数学・英語とも50回以上のドリル学習をおこなってきた。 ドリル学習と共に家庭学習の充実が必要。	継続
			イ.国・数・英の3教科において校内 検定を実施する。	重点 継続	A	年2回の校内検定を行っていった。 通過率70%以上を来年度も目標にしていく。	重点 継続
		指導と評価の一体化 を目指した授業づく りをおこなう	ア.各時間の「つきたい力」を明確に した本時の目標を提示する。	継続	A	各時間で本時の目標は明示されているが,生徒アンケートでは58. 4%しか目標がよく分かると答えていない。 目標の設定及び提示の仕方の工夫を図る必要がある。	改善
			イ.評価基準の研究を行い,形成的評 価の研究推進を各教科でおこな う。	新規	B	授業研究及びシラバス等で評価基準の研究は行ったが,形成的評価の 研究は不十分であった。 評価計画や評価方法の研究を行う。毎時間の評価計画を全教科におい て作成する。	継続

市重点 目標	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	分類	( ) 評価	短期経営目標の達成状況 及び 次年度の改善方針	次年度 方針	
豊かな心	子どもの心に響く道徳教育	実態に応じた特色ある道徳教育を実施する。	ア．道徳性検査をおこない、実態を把握する。	継続	A	検査は5月に実施し、実態把握の研修を実施できた。検査結果の有効利用のため年2回実施するのが望ましい。	継続	
			イ．実態に応じた指導内容の工夫をおこなう。	重点継続	B	課題を学年で検討し実施した。実態分析を基にし、意思表示のできやすい道徳教材の改編が継続課題である。	継続	
			ウ．道徳の校内研究授業を2回以上おこなう。	継続	A	7月、9月、10月(公開研究会)にて実施した。来年度も年度当初に学校行事と関連を見ながら計画的に実施していく。	継続	
			エ．道徳授業での福祉体験学習をおこない、総合的な学習と関連させたボランティア活動をおこなう。	継続	A	7月に各学年とも実施している。ボランティア活動については学校としての参加体制を考えた実施が必要である。	継続	
			オ．環境教育として全校清掃・生徒会を活用した「花いっぱい運動」をおこなう。	継続	B	部活での草取り、全校清掃は8回実施した。計画的な花いっぱい運動の計画と取り組みを進めていく。	継続	
		子どもの自律を育成する生徒指導	規律ある学校生活に向けた生徒指導と特別活動の活性化を推進する。	ア．不登校支援モデル校加配及びカウンセラーとの連携をおこない、不登校生徒を減少させる。	重点新規	B	家庭訪問支援員やSCと個々の生徒について連携をとり取り組みを進めていった。担任などを含めた相談活動により、不登校傾向に歯止めをかけることができた生徒もいる。今後もカウンセラー・家庭との連携を深め、不登校生徒を減少させる取り組みを進めていく。	継続
				イ．学習規律の定着化を図るとともに、学活交流を各学年でおこなう。	新規	C	学習規律については、各学年で差があるものの、生徒アンケートにおいて60%を超えるのは、普段の挨拶やマナーの項目のみであり、定着度は低い。また学活交流も計画できなかった。計画的に研修を行い、到達度を90%以上に上げる。	継続
				ウ．教育相談を年3回以上実施する。	継続	A	各学年ともその時期にあった内容で、2回以上実施できた。今後も継続して取り組む。	継続
				エ．学年委員会・朝会を全体委員会・朝会と連携させ、毎月1回行う。	新規	B	前期は学年・全体とも計画的に実施することができた。次年度3学期制に向けて、行事等の日程とあわせて計画を立て、取り組みを進める	改善
				ア．体力テストを実施し、自己課題を把握させ、体育授業での能力の向上を図る。	新規	B	体力テストは実施し、各自で体力分析を行い、体力・運動能力の目標を持たせ能力の向上に取り組ませている。長期的な目標を持たせ計画的に課題解決に取り組ませしていく。	継続
	基本的生活習慣の確立を図り、健康と体力・運動能力を増進する。	イ．保健だよりを発行し、健康への興味関心を高める。	継続	B	毎月1～2回発行し、健康への興味関心を高める取り組みをしてきた。たよりの内容等について工夫し、学級担任との連携をとりながら指導していく。	継続		
		ウ．学校保健委員会を年2回開催し、基本的生活習慣の確立へ向けての取り組みをおこなう	継続	B	2月27日に第2回目を開催し、今年度の取り組みについて検討する予定。今年度の反省と課題をもとに、次年度も取り組んでいく。	継続		

市重点 目標	中期経営目標	短期経営目標	評価項目	分類	( ) 評価	短期経営目標の達成状況 及び 次年度の改善方針	次年度 方針
力量ある教職員	専門性を高める福山市研修センターでの各種研修特色ある教育活動を推進する各学校の校内研修教育研究団体を核に取り組む自主研修	個々の課題を把握し、研修をおこなう。	ア．年間を通じて各教職員が1回は研修講座等に参加する。	継続	A	計画通り実施できた。 自己課題や校務に応じた適切な研修計画を作成し、実施していくことが必要。	継続
			イ．自己課題を持って研究授業を年間一人1回はおこなう。	継続	A	校内研究授業や公開研究会にて実施できた。 今後も、全職員が共通認識をもって研究授業を行っていく必要がある。	継続
		研修内容の共有化。	ア．各研修に参加した場合、必ず報告書を全員に配布する。	新規	B	一部の報告書についてはレポート提出ができていない。 出張報告書に添付することより徹底できるような方策を考えていく必要がある。	改善
市民から信頼される学校	学習指導要領等の法令に基づいた学校運営校長を中心として組織的におこなう学校マネジメント教育公務員としての教職員の自覚と使命感	積極的な情報公開とアカウントビリティの徹底。	ア．年間を通して学年通信を月2回発行する。	継続	A	年間を通して月二回発行できた。 今後も継続して取り組む。	継続
			イ．HPの更新を毎月おこなう。	新規	A	毎月定期的な更新及び学校からのお知らせや学年通信などをUPした。(現在最終アップデート2月16日:運動能力向上改善計画について) 学校の様子など細かい情報提供を実施していく。	継続
			ウ．組織的な危機管理をおこなう。	継続	A	7月に防犯教室(生徒対称) 11月に防犯訓練(職員対象) 12月に避難訓練(火災)を実施し緊急時の行動や対応の仕方を学習し、身につけてきた。 生徒対称の防犯訓練や地震時対応の避難訓練の実施も行う。	継続
		校長の経営ビジョンの徹底。	ア．各教職員の自己申告書の目標に校長の経営目標を反映させる。	継続	A	教職員の面接指導により、自己申告書に校長の経営目標を反映できている。 最終申告の状況把握と面接指導を行い、次年度への課題を明確にする。	継続
			イ．起案システム等組織管理を徹底する。	継続	A	文書起案の定着化が図られている。 構成内容と誤字脱字の減少化を図るチェック体制を強化する。	継続
		保護者の学校行事への積極的参加を推進する。	ア．参観日等への参加率を把握し、役員を通じて参加を促す。	継続	C	参観日案内・学年通信やPTA学級委員を中心に参加呼びかけを行った結果、平均で53%の参加率であった。 参加率60%を目標に学級連絡網やメール配信システムを活用して参加率の向上を図っていく。また、PTA役員をとおして参加の呼びかけを行っていく。	改善
			イ．文化祭・スポーツフェスティバルへのボランティア参加を推進する。	継続	A	スポーツフェスティバルのプログラムを校区内全戸約3800戸に配布し、当日は、参観者が400名ほどであった。文化祭も校区内全戸にプログラムの配布を配布し、参観者数は500名ほどであった。	継続
			ウ．PTA活動への教職員の積極的参加を推進する。	継続	A	4月～3月初めまでに、PTA関係会議等が35回実施され、教職員も参加して行われた。	継続